



2001年10月24日

世界スピード新記録を達成したW12クーペ、第35回東京モーターショーにて発表

フォルクスワーゲンAG (本社:ドイツ連邦共和国 ニーダーザクセン州 ウォルフスブルグ市)は、第35回 東京モーターショーにおいて、独創のW型12気筒エンジン(総排気量6,000cc、600ps)を搭載した「W12クーペ コンセプト」と、10月14日(日)、南イタリア レッチェ近郊にあるナルドのハイスピード周回コースにて実施された、24時間スピードチャレンジで新記録を打ち立てた、記念すべき「W12クーペ スピードトライアルカー」を発表、出展します。

この「W12クーペ」は、そのスタイリッシュな外観もさる事ながら、独創的で画期的なメカニズムを持つ「W12」と呼ばれるマルチシリンダー エンジンに、大きな期待と注目が寄せられる事でしょう。今回、日本で発表された「W12クーペ」は、近い将来の量産を視野に入れたモデルであり、極めて高い完成度を誇っています。また、そのコンパクトなエンジンが発生するハイパワーでトルクフルなエンジン特性、加えて、ジャーマン テクノロジーの粋を結集した精巧なエンジン メカニズムと静粛性は、まさにフォルクスワーゲンが目指す新しいプレミアム セグメントに必要なエンジンとして、大変重要な意味が含まれています。

特に、今回実施されたスピードトライアルでは、「W12クーペ」に搭載されたW型12気筒エンジンに秘められた高いポテンシャルと、卓越したパフォーマンスが実証されました。時速350km/h、0-100km/hをわずか3.5秒以下で走り抜けるその瞬発力と沸き上がるパワーは、これまでの世界記録を12km/h上回る、平均速度295.24km/hという輝かしい記録を樹立しました。またこのクルマは、5,000キロ及び5,000マイル時点での世界記録をも更新するほか、6つの国際クラス別新記録をも樹立。自動車史上に残る、数々のスピード記録を更新しました。

結果としてこの「W12」エンジンは、今回のスピードトライアルに見られるような過酷な使用条件下においても、想像を超えた高いエンジン性能と信頼性をフルに発揮し、量産エンジンとしても十分に完成されたエンジンである事が証明されたと言えるでしょう。またこの事は、フォルクスワーゲンが、既にプレミアム セグメントに進出する準備が十分整ったと言う事も同時に意味しています。W型エンジン ファミリーの具体的な展開については、W8エンジンが、来年日本に導入される予定の「パサートW8」に採用され、W12エンジンは、いよいよその登場が迫りつつある、社内コード「プロジェクトD1」と呼ばれる、フォルクスワーゲンのプレミアム セダンに採用される予定です。